

京都教育大学 F D ニュース

No. 54

2010年5月31日

F D (ファカルティ・ディベロップメント) 委員会

平成21年度後期の学部授業アンケート結果について

後期授業アンケートにご協力いただき、有り難うございました。実施結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

実施期間：平成22年1月8日（金）～1月27日（水）

対象科目数：389

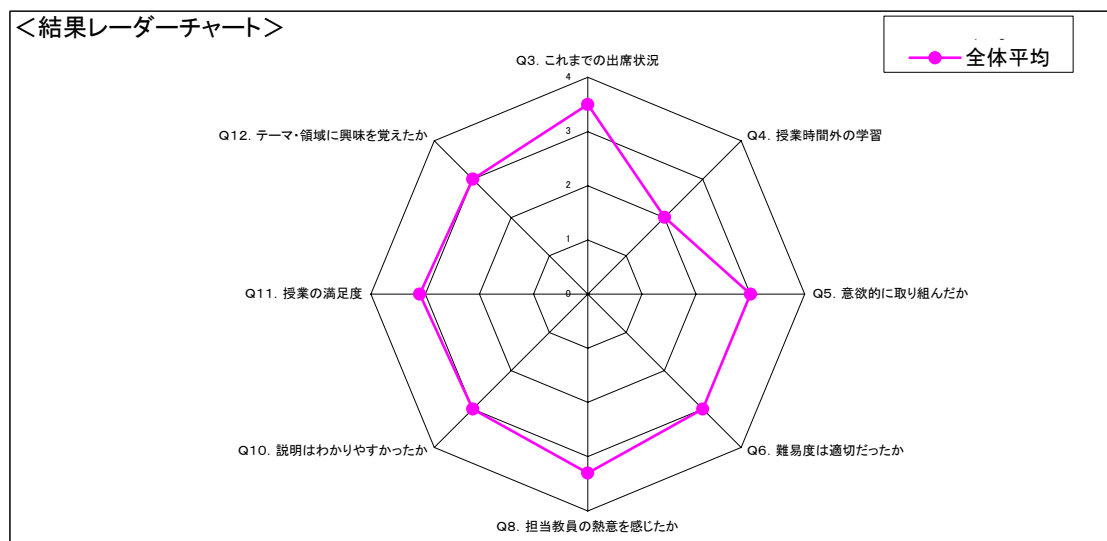
実施科目数：342（実施率87.9%）

実施科目の履修者数：12,465

回答者数：9,895（回収率79.4%）

本年度後期は、実施率や回収率に大きな変化はありませんでした。

全体の結果レーダーチャートは以下の通りで、各項目の平均得点の分布は平成19年・平成20年度とほとんど変化がありません。



これまで、Q11「あなたはこの授業を受講してどの程度満足しましたか」において上位群（3、4を選択した群）と下位群（1、2を選択した群）に分けると、Q8「担当教員の熱意を感じたか」やQ10「説明はわかりやすかったか」で、上位群での評価の高いことが、平成19年度後期結果や平成20年度前期結果で報告されています。

平成21年度前期の報告では、項目間の大まかな比較として、全科目データでの相関関係を見ました。今回は全科目と「一般教育」「教職」「教科教育」の科目で、相関係数を算出しました。

ただし、ここには「一般教育」と「教職」で、相関の高かった項目だけを抽出し、「教職」科目では、Q13「この授業を受講して教員になる意欲や動機が高まりましたか」を加えて示しています。また Q7「あなたにとってこの授業の難易度はどうでしたか」は他の項目との相関が低いので、表からは除いています。

評価の平均値はここに示していないのですが、Q5「意欲的取り組み」で、「一般教育」2.8「教職」2.8「教科教育」3.1となっており、他の項目には殆ど差が見られません。

表1 一般教育科目での質問項目間(Q5～Q12)の相関係数

一般教育	Q5	Q6	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12
Q5 意欲的取り組み	1						
Q6 難易度の適切さ	0.50	1					
Q8 担当教員の熱意	0.43	0.46	1				
Q9 内容の体系性	0.50	0.56	0.61	1			
Q10 説明の分かり易さ	0.54	0.68	0.51	0.62	1		
Q11 授業の満足度	0.55	0.58	0.60	0.60	0.67	1	
Q12 テーマへの興味	0.60	0.51	0.52	0.56	0.61	0.67	1

「一般教育科目」では、主要な項目間の相関は一層高い傾向にありました。

そして「教職科目」では、Q9「内容の体系性」やQ10「説明の分かり易さ」と他項目との相関が少し低く、Q11「授業の満足度」やQ13「教職への熱意向上」は、Q12「テーマへの興味」との相関が高い傾向が見られました。

表2 教職科目での質問項目間(Q5～Q13)の相関係数

教職科目	Q5	Q6	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13
Q5 意欲的取り組み	1							
Q6 難易度の適切さ	0.46	1						
Q8 担当教員の熱意	0.40	0.47	1					
Q9 内容の体系性	0.29	0.35	0.40	1				
Q10 説明の分かり易さ	0.34	0.45	0.41	0.31	1			
Q11 授業の満足度	0.56	0.58	0.54	0.40	0.48	1		
Q12 テーマへの興味	0.53	0.51	0.46	0.33	0.36	0.64	1	
Q13 教職への熱意向上	0.48	0.42	0.40	0.29	0.32	0.55	0.68	1

「教職科目」は必修科目でもあり、領域の自由な設定は困難ですが、それだけに興味を引く領域・テーマを授業に持ち込む必要性は高いのかも知れません。

昨年から新しく加えられた各教員作成の追加項目欄の利用は、342科目中9科目(2.6%)で使用されたのみで、今後利用の増大が望まれます。

FD研修会に関する問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いします。

FD委員会委員：岡本(委員長)、水谷(副委員長)、芝原、井上、杉井